

EM WAVE

Wireless Microphone Systems

日本語オーナーズマニュアル



安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。

本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守ってください」という強制を表しています。		「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
---	---------------------------------	---	-----------------------------------



警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重症、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



本書を全て読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み、本書の内容に従ってください。



水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。



本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



大音量で使用しないこと

極端に高いレベルで再生を行わないでください。一時的または恒常的な難聴や、接続している機器が故障する原因になる場合があります。



本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。



改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。



異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、端子に異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。



本体を濡れた手でさわらないこと

感電の原因となる場合があります。



注意

この記号は取り扱いを誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。



高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にもうすぐなど裸火を置かないでください。



裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと

この製品に直射日光を当てたり、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないでください。本体が故障する原因になります。



テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと

この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。

修理

- 日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認してください。
- テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、03-5534-6783 へ FAX もしくはメールにて送付してください。折り返し修理受付番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX もしくはメールにて返送致します。修理受付番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- オーナーズマニュアルと付属コードは同梱しないでください。修理には必要ありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- 修理受付番号が記載された修理受付表のコピーを必ず同梱してください。また送り状の通信欄にも、修理受付番号と商品名、製造番号を記載してください。修理受付番号のない修理品は受付できません。

保証

- 本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、予めご了承ください。
 - お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
 - お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
 - 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
 - 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
 - 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
 - 日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホームページをご参照ください。
mackie-jp.com/support

修理受付（商品センター）

〒136-0083 東京都江東区若洲 2-6-6 千住倉庫 1F B 棟
 株式会社日本システムサービス内
 ☎ 03-5534-6782
 📠 03-5534-6783

サポート問い合わせ先

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業窓口

東京	東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1 ☎ 03-3639-7800（代表） 📠 03-3639-7801
大阪	大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4 7F ☎ 06-6152-7751 📠 06-6152-7752
名古屋	愛知県名古屋市東区泉 1-23-30 ☎ 052-950-3324 📠 052-950-3325
広島	広島県広島市中区富士見町 16-22-604 ☎ 082-258-2916 📠 082-2582917
福岡	福岡県福岡市中央区大名 1-4-1 ND ビル 5F ☎ 092-408-1775 📠 092-408-1776
仙台	宮城県名取市杜せきのした 2-2-16-101 ☎ 022-797-5281 📠 022-797-5282

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30
 休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

Contents

EM Wave の特徴

はじめに

クイックスタート

接続図

EM Wave - 本体の機能

1. USB Type-C 充電ポート
2. 電源スイッチ
3. ペアリング
4. ミュート
5. ステータス LED
6. 送信機マイク入力
7. 受信機：メイン出力端子
8. 受信機：ヘッドホン出力端子
9. 音量

最後に

お手入れとメンテナンス

付録 A: サービスについて

付録 B：技術情報

4 EM Wave の特徴

5 送信機と受信機がセットのオールインワンシステム

5 超軽量コンパクト設計

6 さまざまな地域で信頼性の高い動作を実現する 2.4 GHz 帯デジタル暗号化通信

9 最大約 7 時間使用可能な充電バッテリー搭載

9 ボタン 1 つでペアリング

9 状態を瞬時に判別可能なマルチカラー LED

9 同一エリア最大 6 波使用可能

10 充電とファームウェア更新用の USB-C 端子（※別途充電器が必要）

10 ベルトクリップ付属

11 EM Wave 受信機

- 1/8 インチステレオ出力
- 1/8 インチヘッドホン出力
- 調整可能な出力レベル

12 EM Wave LAV 送信機

- 1/8 インチバランス入力（付属ラベリアマイク用）
- マイクを接続せずとも瞬時に収音可能なエレクトレットマイクロホン内蔵
- 入力感度調整 GAIN
- ミュートボタン装備

EM Wave XLR 送信機

- ダイナミックハンドマイクを直接装着可能な XLR コネクター
- 入力感度調整 GAIN
- ミュートボタン装備

同梱アクセサリ

- 大切な機材を衝撃から保護するキャリングケース
- ラベリアマイクロホン（クリップ・ウィンドスクリーン付, EM Wave LAV のみ）
- 1/8 インチ TRS-TRRS オーディオケーブル
- 1/8 インチ TRS-TRS オーディオケーブル
- USB-A-USB-C ケーブル（受信機と送信機を同時に充電できる Y ケーブルです。また、充電器は付属しておりません。別途市販品をご用意ください。（5V 2A 相当 USB A 出力充電器推奨）

※重要事項

- 受信機の出力をミキサーのモノラル標準端子入力に接続する際には、ステレオミニ→モノラル標準変換をご使用ください。XLR 端子に接続する際はステレオミニ TIP → XLR2 番、ステレオミニ RING → XLR2 番、ステレオミニ SLEEVE → XLR1 番および XLR3 番の配線を行ってください（HOSA / XVM-105M など）。

はじめに

Mackie プロフェッショナルエンジニアリングチームにより設計開発された EM Wave ワイヤレスマイクロホンシステムで、従来のシステムよりも簡単にワイヤレスシステムを構築することができます。

デジタル 2.4 GHz 帯を採用し送信機から受信機まで最大で 70 m もの距離を伝送できます。また 1 回の充電で最大 7 時間駆動可能なバッテリーを搭載し、明瞭度の高いサウンドと高いパフォーマンスを実現しました。

トランスミッター（送信機）は内蔵マイク（LAV システムのみ）とマイク入力端子、ミュートボタン、入力ゲインコントロールを搭載。レシーバー（受信機）はヘッドホン出力端子と、ミキサーなどに接続可能なメイン出力端子、出力ゲインコントロールを搭載。送受信機ともにペアリングボタンを装備しています。

コンテンツ制作、ポッドキャスト、ライブ配信、動画収録など自由自在に制作する為にはワイヤレスのマイクシステムが必要不可欠です。ラベリアマイクまたはハンドヘルドマイクの構成で利用可能な Mackie EM Wave があれば、誰でも驚くほど簡単に、素晴らしいサウンドのワイヤレスシステムを手にすることができるでしょう。

このマニュアルの使い方

この後に続くクイックスタートガイドでは、本機を設定するための手順が説明されています。接続図は典型的な使用例を解説しています。



このアイコンは特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。よく読み覚えておくことをお勧めします。この手のひらアイコンにて示される領域には特に注意を払うことをお勧めします。



より詳細な情報の場合、顕微鏡のアイコンを使っています。また実用的なヒントの説明も含んでいます。



ノートアイコンの隣に表示されるテキストにも注意を払ってください。このアイコンは、EM Wave の使用に関連する特定の機能などを説明しています。

クイックスタート

以下の手順に従うことで EM Wave を素早く設定できます。

※まず初めに EM Wave を充電してください。充電器は付属しておりませんので、別途ご用意ください。充電方法の詳細は [P.9](#) をご参照ください。

1. 受信機の 1/8 インチメイン出力端子から、ミキサーやスマートフォンなどストリーミングデバイスまたは録音するデバイスの入力端子に接続します。

※重要：使用ケーブルは [P.4](#) をご参照ください。

2. 送信機のマイク入力端子にマイクを接続してください。
3. 受信機と送信機の電源を入れてください。電源を入れるとペアリングされた状態になるはずです。そうでない場合は [P.9](#) をご参照ください。
4. マスターボリューム、レベル、ゲインコントロールがすべて下げられていることを確認してください。

5. 普段どおりのボリュームで、話したり、歌ったり、楽器を演奏してください！

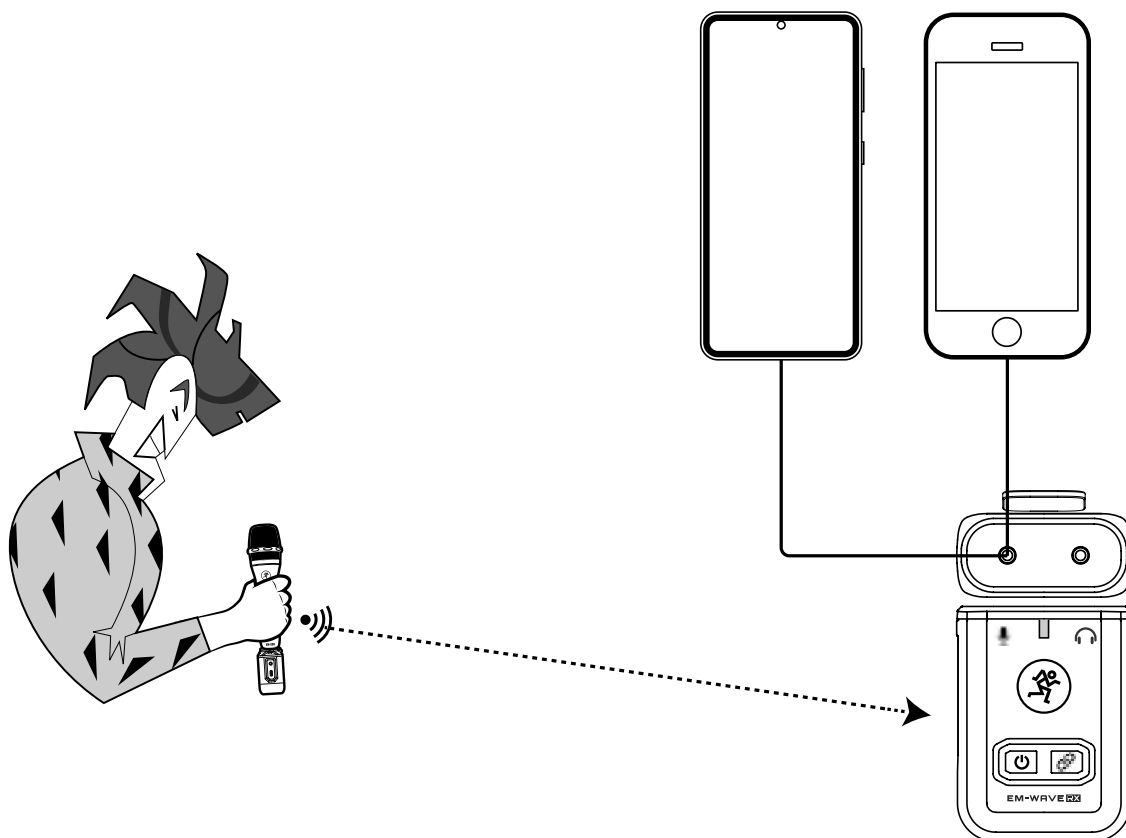
6. 送信機の入力レベルと受信機出力レベルを適切なレベルまで上げてください。同様に受信機を接続したミキサーのゲインをクリップするまで上げ、そのあとミキサーのゲインを 1～2 程度下げます。

7. ミキサーのチャンネルフェーダーとメインフェーダーを、聴きやすいレベルまで上げます。

その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがあります。[P.2](#) の安全条項をよく読んでください。
- 梱包箱と同梱物は大切に保管してください。いつか必要になる時があるかもしれません。
- 保証書は大切に保管してください。

接続図



EM Wave が最も多く活躍する使用法は、スマートフォンと接続する場合でしょう。

上のイラストをご覧ください。ボーカリストが Mackie EM-89D マイクを使おうとしています。このマイクには EM Wave XLR 送信機をつけており、スマートフォンに接続した EM Wave 受信機とペアリングされています。

EM Wave には 1/8 インチ TRS-TRRS オーディオケーブルが付属しています。このケーブルの TRS 端子を受信機のメイン出力端子に、TRRS 端子をスマートフォンの入力端子に接続します。これでマイクからの音声信号をスマートフォンへ送ることができます。

このイラストでは 2 台のスマートフォンが 1 台の受信機に接続されているので皆さん驚かれたかと思いますが、実際に接続できるのは 1 台のみです。Apple と Android のどちらの端末でもうまく動作しますよとお伝えしたかったのですが、ちょっとややこしい図になってしまいましたね…申し訳ありません。しかし良いニュースもあります！ EM Wave は同一エリアでは最大 6 波まで使用することができます。ただし、送信機と受信機は 1 対 1 のみで使用できます。複数台の送信機と 1 台の受信機という組み合わせでは使用できません。

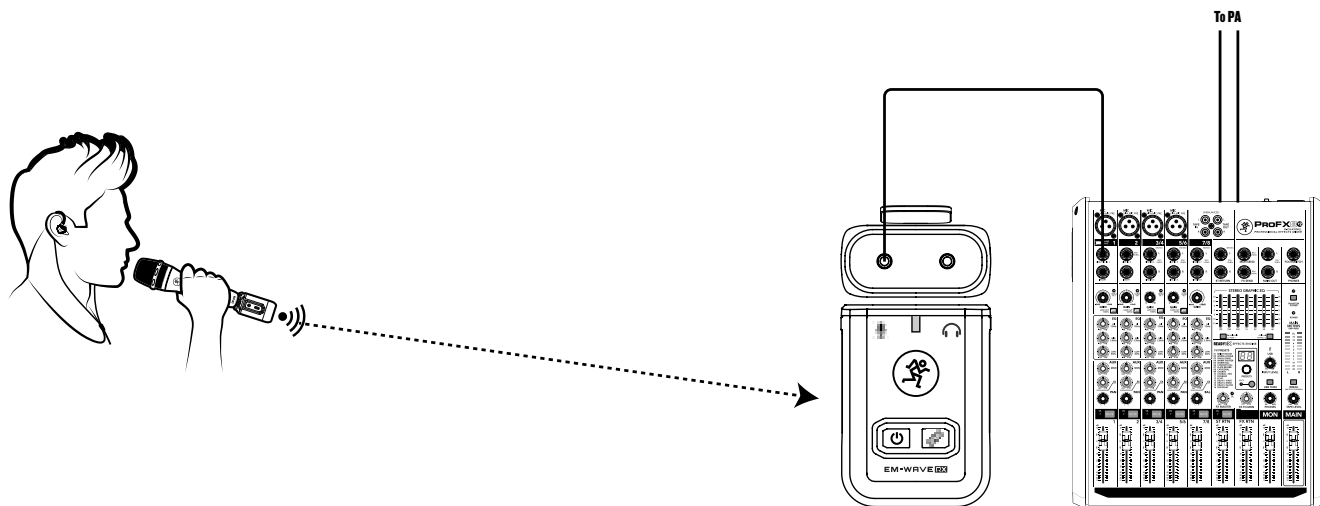
EM Wave といつものスマートフォンだけで簡単にワイヤレスシステムを構築できるので、コンテンツ制作の幅がぐっと広がります。ワイヤレスマイクを持って Twitch でライブ配信をするのもいいですね。TikTok や YouTube などのアプリ用にオリジナルダンスを録画してみるのもいいかもしれません。

デジタル一眼レフカメラで動画を撮ることも一般的になりましたね。そのライブ音声を簡単にモニターする方法をお教えしましょう。デジタル一眼レフカメラの音声出力端子に EM Wave 送信機のマイク端子、ヘッドホンを EM Wave 受信機のヘッドホン出力に端子に接続するだけです。特別なケーブルや代替ファームウェアは必要ありません。

EM Wave LAV にはラベリアマイクホンが付属しています。これを使えば両手は自由で、マイクを使っているようには見えません。またラベリアマイクを忘れてしまったときも安心してください。送信機自体にマイクが内蔵されているので、直接クリップで襟に留めてしまいましょう。かゆいところに手が届く Mackie 仕様です。

さあ、これで血洗いや掃除中でも、洗濯ものをたたんでいるときでも、コンテンツ制作ができるようになりました。インフルエンサーであるあなたに時間はありません。美容のための睡眠も必要ですし、でもだからといって膨大な量の日々の家事もなくなる…。そこでこのワイヤレスシステムをうまく使ってください。隙間時間こそクリエイティブな時間です！

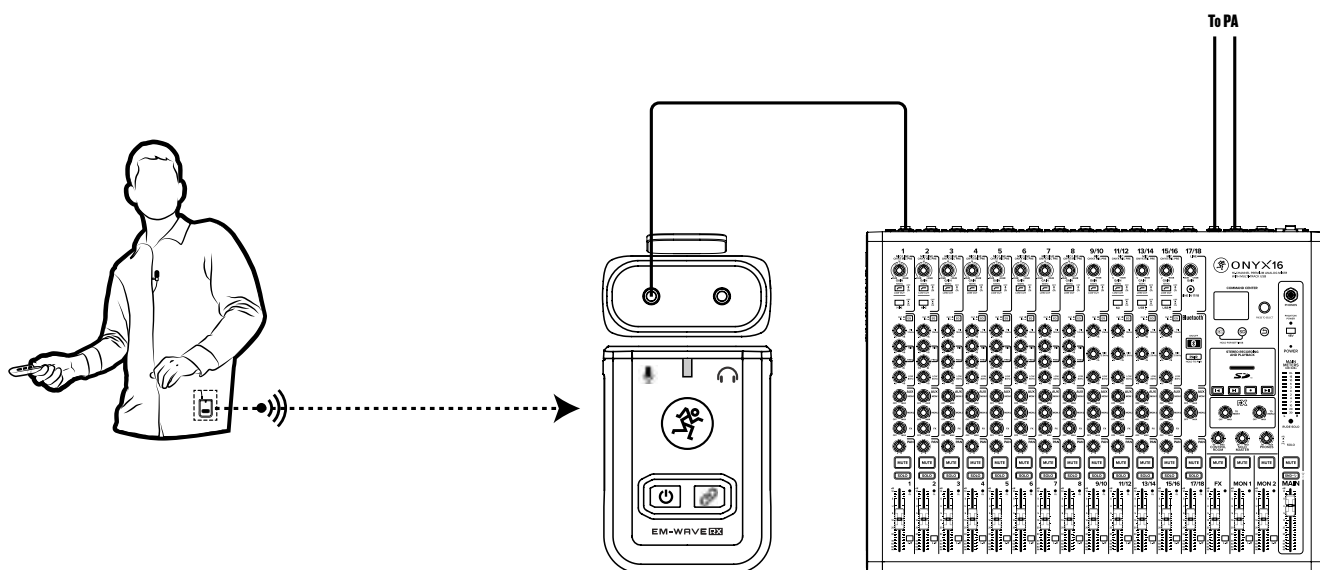
Using EM Wave with a Phone



ここではボーカルがワイヤレスマイクを使用する例を紹介します。Mackie EM-89D マイクに EM Wave XLR 送信機をセットします。この送信機とペアリングした受信機を、Mackie ProFX10v3 ミキサーと接続します。その後ミキサーのメイン出力端子から PA システムへとケーブルを接続します。ステージを自由に歩き回るボーカリストや、ケーブルに縛られたくないプレゼンターなどに最適なセットアップです。

※重要：受信機をミキサーなどに接続する際のケーブルは [P.4](#) をご参照ください。

Singer with Wireless Mic



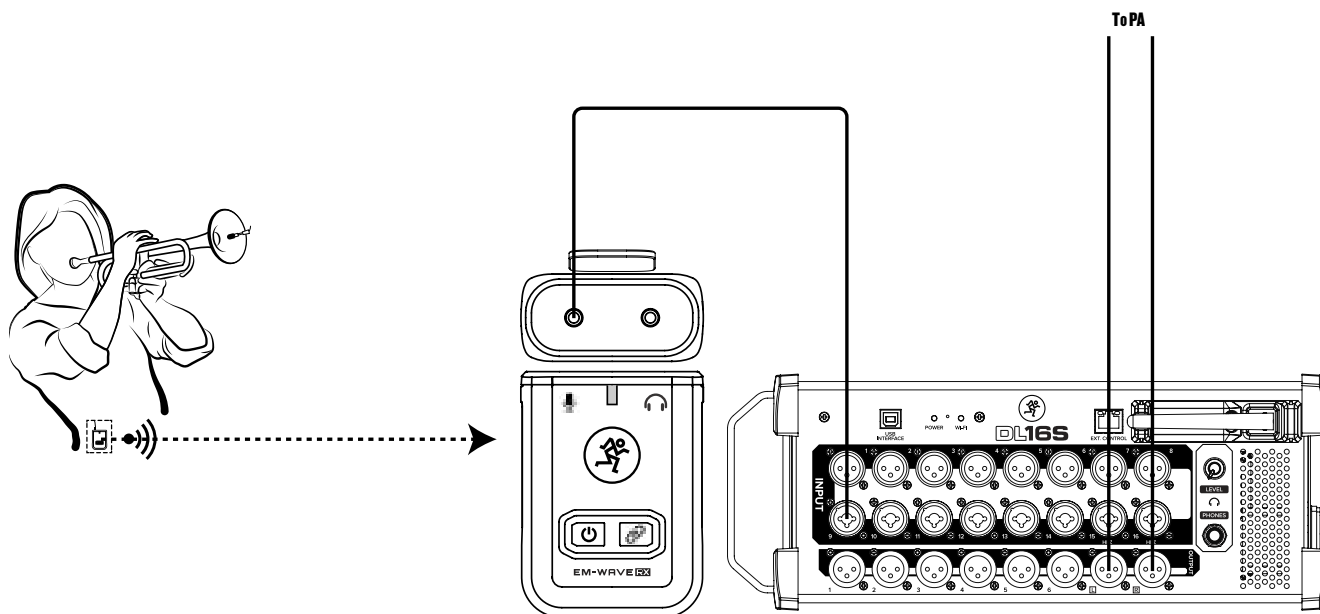
次は EM Wave LAV の使用例を紹介します。マイクをハンズフリーにしたければこちらの例を実践してください。マイクを持っていないように見せることが可能です。まず送信機をプレゼンターのポケットなどに入れ、付属のラベリアマイクをシャツに留めます。こちらにはクリップとウィンドシールドがついていますので安心してください。これでプレゼンターの自由度はぐっとあがるでしょう。PowerPoint のリモコンを操ってスライドを切り替えたり、ステージ上でダンスを始めることだってできます。

そこまで自由に動き回らなくても大丈夫？それでしたら付属のラベリアマイクを使わず、送信機に内蔵されているマイクだけでも問題ありません。送信機を直接シャツにクリップで留めてください。

※重要：受信機をミキサーなどに接続する際のケーブルは [P.4](#) をご参照ください。

Presenter with Lavalier Mic

接続図



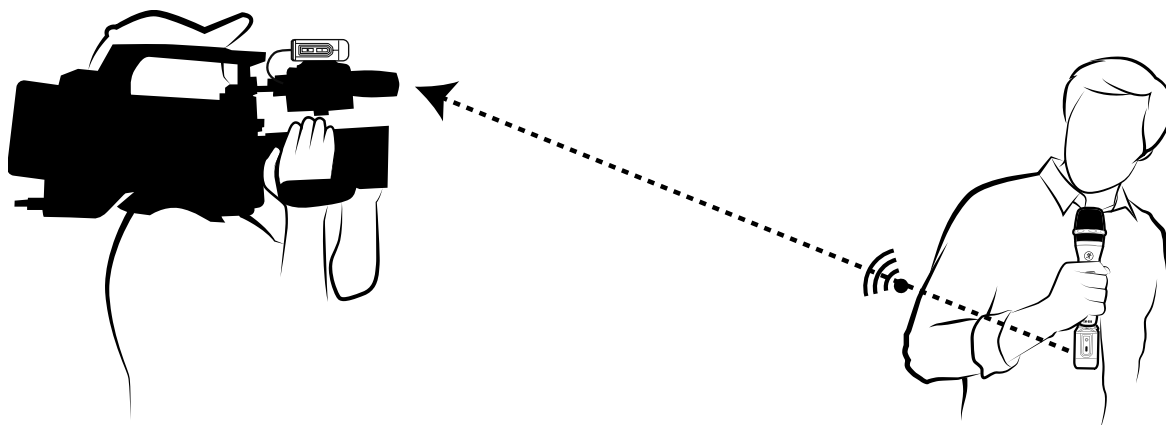
トランペットなどの管楽器奏者のように両手が塞がっているような場合は、XLRではなくLAVのシステムを使いましょう。

EM Wave LAV に付属しているラベリアマイクはそのままでも使えますが、楽器と共に使用される場合は、イラストのように付属のウィンドスクリーンをつけてクリップで楽器に留めてご使用ください。

送信機と受信機のペアリングが完了したら、受信機をミキサーの近くに置いてください。ミキサーと受信機は有線で接続をします。ミキサーのメイン出力端子はPAシステムとを接続します。

※重要：受信機をミキサーなどに接続する際のケーブルは [P.4](#) をご参照ください。

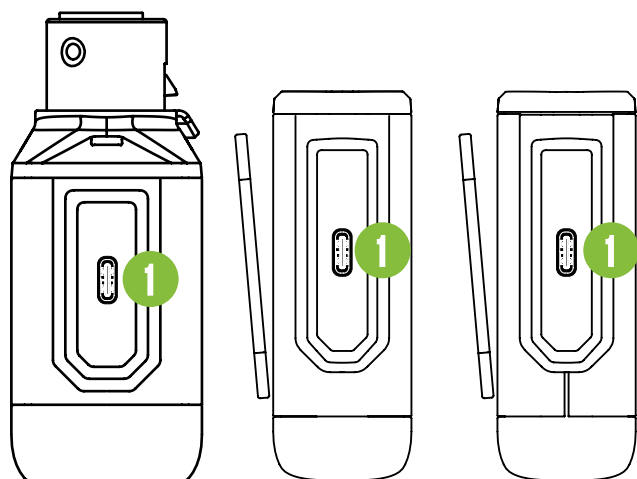
Horn Player with Lavalier Mic



Mackie EM-89D マイクと EM Wave XLR を使用した例をもう一つ紹介します。イラストのように XLR 送信機はマイクに、ペアリングされている受信機はビデオカメラやカムコーダー・デジタル一眼レフカメラのコールドシューマウントに取り付けます。受信機のベルトクリップのサイズが一般的なコールドシューマウントのサイズとなっています。受信機的主要出力端子とビデオカメラの入力端子は 1/8 インチケーブルで接続しています。これであなたも今日からプロのニュースキャスターです。

Newscaster with Wireless Mic / Cold-Shoe Mounted Camera

EM Wave - 本体の機能



XLR TX

LAV TX

RX

1. USB Type-C 充電ポート

EM Wave を充電するための Y 字 USB Type-C 電源コードがパッケージに同梱されています。この電源コードの Type-C 側を送信機 / 受信機へ接続してください（送信機と受信機は同時に充電できます）。電源コードの USB Type-A 側を 5V 2A 相当の USB A 出力充電器へ接続し充電を行ってください。本製品に USB A の充電器は付属していません。別途ご用意ください。



充電中も EM Wave は使用できます。

2. 電源スイッチ

電源スイッチの用途は多岐にわたります。

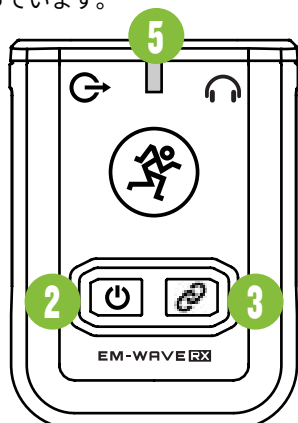
スイッチを長押しすることで、電源のオン / オフができます。電源が入ると、ステータス LED が緑色に点灯します。点滅している場合はペアリングの相手（送信機の場合は受信機、受信機の場合は送信機）を検索しています。送受信機のペアリングが完了している場合は、LED は緑色に点灯します。

電源がオフの状態での電源スイッチを軽く押して離すと、バッテリー残量を LED で表示します。LED ステータスの表示については「5. ステータス LED」をご参照ください。

NOTE

誤動作を防止するため、本機の電源がオンの状態でこの電源スイッチをすばやく押しても何も起こらないようになっています。

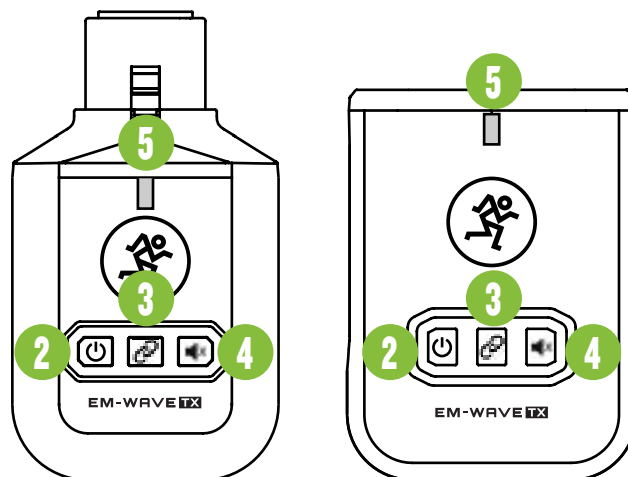
RX



3. ペアリング

送信機と受信機は電源を入るとすぐにペアリングを開始します。うまくペアリングできない場合、もしくは何らかの理由で再度ペアリングを行わなければならない場合、このスイッチを押してください。ステータス LED でペアリングの状態を表示します。

ペアリングするには、送信機と受信機のペアリングボタンをステータス LED が緑と赤に点滅するまで長押しします。次に、送信機と受信機のペアリングボタンを、LED が緑色に点灯するまでもう一度長押しします。



XLR TX

LAV TX

4. ミュート

マイクのミュートボタンです。瞬時に音声をミュートさせたい時に役立つスイッチです。ミュート中は LED が緑色に点滅します。

5. ステータス LED

本体の状態を表す LED です。

- **電源オン**：緑色に点灯
- **電源オフ**：消灯
- **バッテリー残量**：簡単にバッテリー残量を確認できます。電源がオフの状態、電源ボタンを素早く押して離すことによって状態を確認できます。

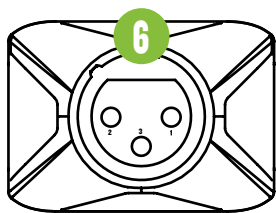
フラッシュ 1 回：バッテリー残量 25%未満
フラッシュ 2 回：バッテリー残量 25 ～ 50%
フラッシュ 3 回：バッテリー 50 ～ 75%
フラッシュ 4 回：バッテリー 75-100%

- **ペアリング完了**：緑色
- **ペアリングされていない状態**：緑色と赤色に点滅。再ペアリングの方法は「3. ペアリング」をご参照ください。
- **ミュート状態**：緑色に点滅
- **ミュート解除**：緑色に点灯。電源が入り、正常に動作している状態です。

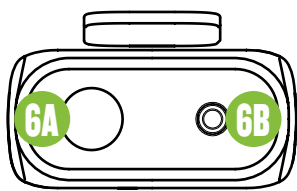
EM Wave - 本体の機能

6. 送信機マイク入力

ご購入されたパッケージには、XLR もしくはラベリア（LAV）タイプいずれかの送信機が入っています。ご購入にどちらかを選択してください。



XLR TX

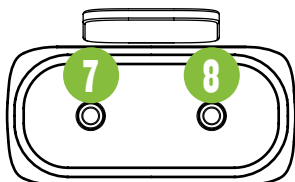


LAV TX

- **XLR 送信機**：XLR 端子にダイナミックバランスマイクを接続します。
- **LAV 送信機**：2通りの音声送信ができます。
 6A：内蔵マイクを使用。LAV 送信機をそのままマイクとして使用します。クリップで好きな箇所に留めてください。
 6B：プロフェッショナルサウンドで音声送信したい場合、付属のクリップ付ラベリアマイクロホンとウインドシールドをご使用ください。この付属ラベリアマイクを 1/8 インチ入力（6B）に接続してください。

7. 受信機：メイン出力端子

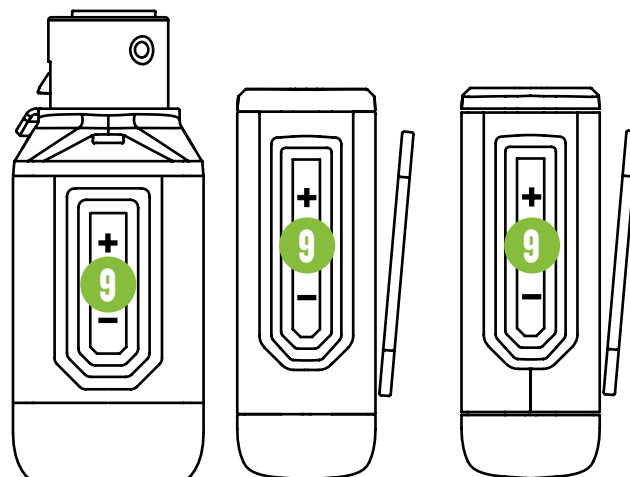
受信機の 1/8 インチのメイン出力端子は、ミキサーやストリーミングを行うスマートフォンやレコーディング機器へと音声信号を出力する端子です。



RX

受信機はミキサーの近くに設置してご使用ください。またカムコーダーやデジタル一眼レフカメラを使用する場合は受信機の付属ベルトクリップを使い、直接カメラやレコーダーのコールドシューマウントに取り付けることができます。

※**重要**：受信機をミキサーなどのモノラル入力に接続する際のケーブルは [P.4](#) をご参照ください。



XLR TX

LAV TX

RX

8. 受信機：ヘッドホン出力端子

この 1/8 インチ TRS コネクタはステレオヘッドホンを接続することのできる端子です。

ヘッドホン出力端子配線

チップ＝左チャンネル

リング＝右チャンネル

スリーブ＝グラウンド



注意：ヘッドホンアンプはかなりの音量で再生されることがあるため、難聴の原因となる場合があります。中程度のレベルでも痛いほどの音量となる可能性があります。**ご注意ください！**ヘッドホンを装着する前に、必ずレベルコントロールを最小まで絞るようにしてください。ボリュームの調整は、できる限りゆっくりと行うようにしてください。

9. 音量

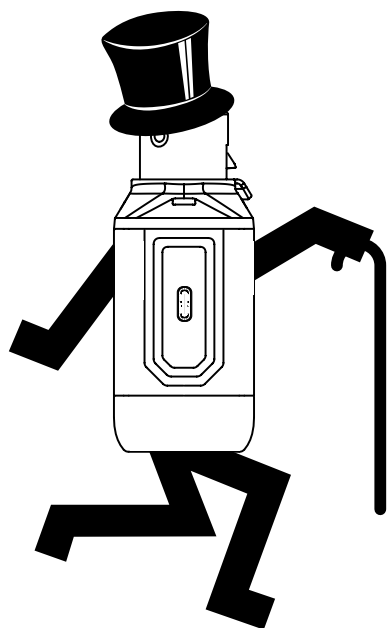
送信機のスイッチでは入力レベルを調整、受信機のスイッチは出力レベル全体を調整します。

レベル調整幅：0dB / -12dB / -24dB

最後に

ワイヤレスマイクシステム EM Wave をご購入いただき誠にありがとうございます。

かつて Microsoft ™ の Office にはいつも大きなフキダシを背負っていて、「何について調べますか？」と健気にサポートを試みるイルカのカイル君がいましたが、Mackie にはランニングマンが・・・って違います、ランニングマンは何も答えてくれません。ひたすら走っているだけです。ではちょっとした疑問質問はどうしましょう。ぜひこのマニュアルを読み込んでみてください。このページの Tips と次ページのトラブルシューティングをぜひご活用ください。



ワイヤレスマイクシステム構築時の留意事項

使用場所をご確認ください。動作可能範囲である 70 m を超えないようにしましょう。同様に、送信機と受信機の間は最低でも 3 m ほど離す必要があります。また、送信機と受信機の間にはできるだけ障害物を置かず見通しをよくしてください。特に壁や重い毛布、カーテンなどの障害物が最小限（または全くないこと）であるように設置してください。

また、使用する前にバッテリーが完全に充電されているかチェックすることも重要なポイントです。EM Wave は充電中でも使用可能です。

そして、システムを使用する前に必ずテスト送受信を行ってください。どのような場所であっても、本番を行う前に送信受信ができているかどうか、受信機を持って会場内を歩き回りながらテストしてください。送受信に問題がありそうな場所を特定できれば、本番前にその対策を行うことができるでしょう。これが最後の、そして最も重要なアドバイスです。

一いえいえ、本当に最後の、そして私たちが一番伝えたいアドバイスは、楽しむこと！これにつきます。

お手入れとメンテナンス

EM Wave は下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- EM Wave システムを湿気の多い場所で使用しないでください。屋外でご使用になる際は、雨を避けるようにしてください。
- また氷点下での使用も極力避けてください。動作保証温度は 0°C ~40°C です。
- 送信機、受信機のお手入れには乾いた清潔な布だけをお使いください。また、お手入れする際には電源が確実に切れていることを確かめてください。開口部から液体を内部に侵入させないように注意してください。

付録 A: サービスについて

EM Wave に問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。弊社のウェブサイトのサポートセクションをご覧ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 私たちの大好きな質問です。電源コードは接続されていますか？…って冗談冗談！ワイヤレスですからね、電源コードは不要でしたね。
- 改めて、私たちの大好きな質問です。電源スイッチはオンになっていますか？もしなっていないければオンにしてみてください。
- 電源の LED は点灯していますか？もし点灯していなければ充電が必要です。充電がされているのに電源が入らないようでしたら、下記の「音が出ない」をご参照ください。

音が出ない

- 入力レベルを絞っていませんか？システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。ミキサーのレベルメーターを見て信号が入力されているかを確認してください。
- シグナルソースは機能していますか？受信機とミキサーなどを接続するケーブルに問題がないこと、両端がしっかり接続されていることを確認してください。ミキサーなどの出力レベルコントロールが十分上がっていることを確認してください。
- ミキサーのミュートがオンになっていないか、またプロセッサのループが有効になっていないか確認してください。このような状況の場合、問題の機器を外す前に必ず音量 / ゲインを下げてください。

音が良くない

- 音量が大きくて歪んでいますか？信号経路で過大入力となっている原因がないかを確認してください。システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- 入力端子がジャックに最後までしっかり挿し込まれていますか？全ての接続に問題がないことを確認してください。

ノイズが出る

- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。

ワイヤレスシステムに関する Tips

- 送信機と受信機の間にはできるだけ障害物を置かず見通しをよくしてください。特に壁や重い毛布、カーテンなどの障害物が最小限（または全くないこと）であるように設置してください。
- 動作可能範囲である 70 m を超えないようにしてください。同様に、送信機と受信機の間は最低でも 3 m ほど離す必要があります。
- 使用する前に、バッテリーが完全に充電されていることを確認してください。

その他

- ここに記載されていない問題がある場合は、お問い合わせください。

ご不明な点は・・・

- mackie-jp.com にアクセスしてサポートの項目を確認してください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお送りください。

付録 B：技術情報

EM Wave 仕様

ワイヤレスシステム帯域

2.4 GHz 帯デジタル暗号化通信

動作可能範囲

70 m

ダイナミックレンジ

>105 dB

バッテリー

リチウムイオンバッテリー 3.7V, 130 mAh

バッテリー動作時間

最大約 7 時間

アナログ出力レベル

レベル調整幅：0dB / -12dB / -24dB

送信機ペアリング方法

ワンボタン

充電機器（別売・別途市販品をご用意ください）

5 VDC 2A 相当 USB A 出力充電器

寸法 / 重量

XLR 送信機

高さ	84 mm
幅	41 mm
奥行き	25 mm
重量	0.04 kg

LAV 送信機 / 受信機

高さ	51 mm
幅	38 mm
奥行き	28 mm
重量	0.03 kg

電波法 工事設計認証番号

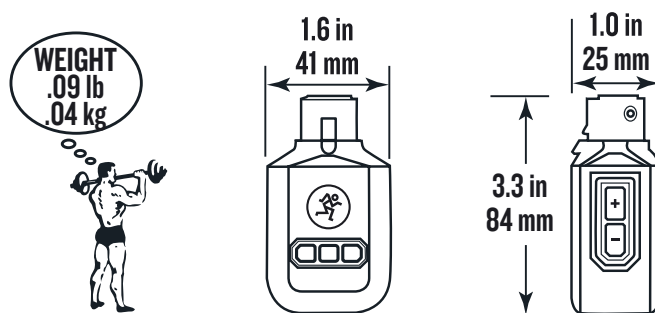
EM Wave XLR  018-220129

EM Wave LAV  018-220130

LOUD Audio 社は常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観及び仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running man」は LOUD Audio 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

EM Wave XLR 寸法



EM Wave XLR 寸法



EM Wave XLR 寸法



